



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆様等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.1

寄附講座Ⅰ

今回は、「地域産婦人科診療部」についてご紹介します！

■地域産婦人科診療部

産婦人科医師の不足によって、分娩を取り扱う施設が急激に減少しており、地方では住んでいる地域で分娩できない分娩難民が発生し、社会問題となっています。妊娠・分娩は急変する可能性があり、その場合複数の産婦人科医師と新生児を診る医師が必要であることから、病院の集約化が進んでいるのです。徳島県南部においても阿南市以南には産婦人科がなく、また、がん拠点病院や不妊クリニックは徳島市に集中し、総合周産期センターは徳島県下で徳島大学病院のみであることから、診療格差が大きく住民にとっては非常に困った事態となっています。地域産婦人科診療部はこのような状況を何とかするための社会実験を行う講座です。

徳島県立海部病院では、これまでは産婦人科については、週3日程度の外来のみで対応していましたが、現在は24時間体制で産婦人科医師が常駐しています。また、分娩についても10月からできるよう準備しています。妊婦は、海部病院で分娩するか、検診のみを海部病院で行い、分娩は他の病院で行うか選択するようになっています。また、婦人科の治療においても大学病院と同等の医療が受けられるようになったことは大きな進歩だと思います。

■今後の目標・課題

引き続き住民向けの講演会などを行い、ニーズを把握し、よりよい医療が提供できるように住民とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。また、分娩を取り扱うとなると、医師はもちろん、助産師が必要となります。呼び出し制による勤務となるため、通常勤務に加えて、時間外勤務が必要となり、それなりの人員も確保しないといけません。そのような状態を解決できるようにするとともに、婦人科の手術においても住民の交通等の負担を考え、初期で簡単なものであれば、その場でできるような体制ができるよう努めていきたいと思っています。

「寄附講座」について

徳島県は、医師不足解消などを目的とした「地域医療再生計画」のひとつとして、2010～2013年度の4年間、運営費等を負担し「地域産婦人科診療部」「ER・災害医療診療部」「地域外科診療部」「総合診療医学分野」の4つの「寄附講座」を徳島大学に開設しました。「寄附講座」に所属する教員(医師)は、県立病院(中央病院、三好病院、海部病院)において診療活動を行いつつ、地域医療に関する研究を通じて同病院を支援するとともに、将来の地域医療を担う医師の養成に取り組んでいます。



説明は、
徳島大学病院 地域産婦人科診療部 特任教授

古本博孝 (ふるもと ひろゆき)

■問い合わせ

産科婦人科医局 Tel.088-633-7178